



7/10に穂肥診断ができるよう、 作溝・中干しを徹底しましょう！

●6月29日の生育調査結果

平年に比べて、草丈は短く、莖数は並からやや多く、葉数は並からやや少なく、葉色は並から濃い状況です。高品質で良食味のつや姫を生産するためには、7月10日の生育診断が重要です。このため、7月10日までには中干しを終了し、適期に穂肥ができる稲姿にしましょう。葉色が濃い圃場では、やや強めの中干しを行うことが重要です。

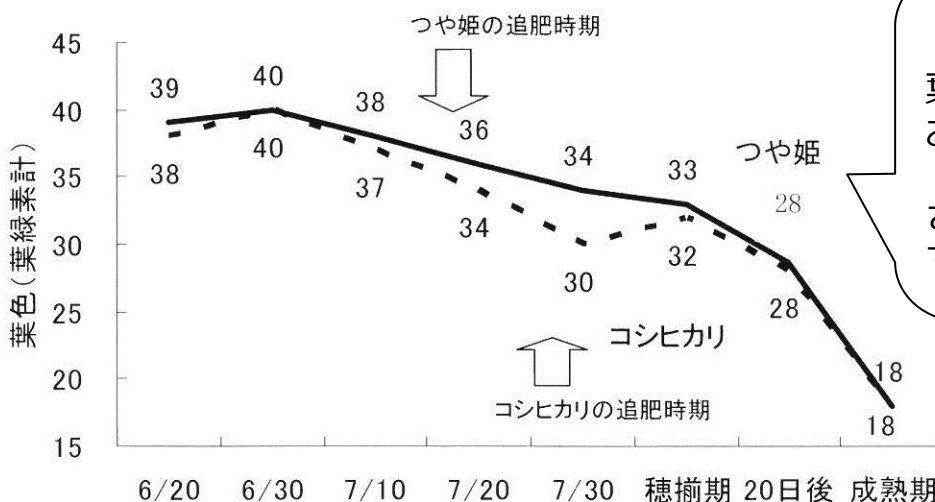
表 作柄診断ほの生育調査結果（6月29日）

	草丈(cm)		莖数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(SPAD)	
	上清水	押切新田	上清水	押切新田	上清水	押切新田	上清水	押切新田
本年	40.6	39.7	575	730	9.0	9.2	42.1	42.8
平年	44.7	42.7	545	570	9.2	9.2	42.0	41.4
平年比差	91	93	106	128	-0.2	±0.0	+0.1	+1.4
指標	44		532		9.2		39.9	

注) 鶴岡市上清水平年は過去5カ年平均、三川町押切新田(有機栽培)平年は過去4カ年平均

●生育(莖数、葉色)にあわせた、穂肥を行いましょう！

1 つや姫の葉色の推移



つや姫の理想的な葉色推移は左図のとおりです。
葉色を適正に低下させることが重要です。

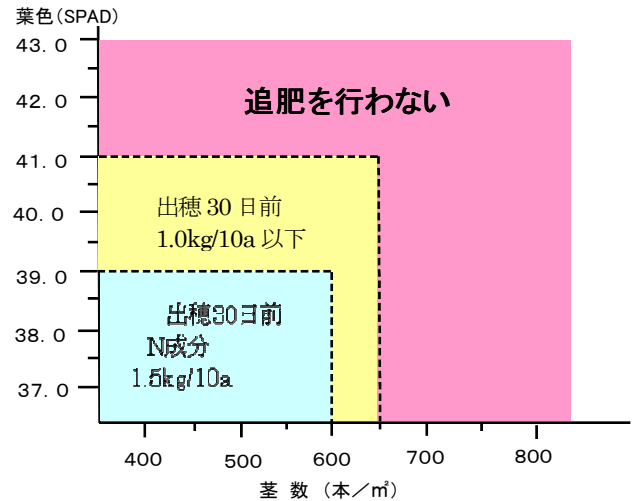
2 7月10日の生育診断

～必ず実施！すべての圃場で出荷基準をクリアしよう！～

つや姫では、玄米粗タンパク質含有率が7.5%を超えた場合、つや姫として販売できないという、出荷基準があります。

玄米粗タンパク質含有率を適正にするためには、初期茎数の確保と適期中干しにより、適正な生育量と葉色にすることがポイントです。

7月10日の生育診断は、生育を確認し、穂肥対応の診断を行う重要な技術です。必ず実施し、慎重に対応を判断しましょう。



7月10日(出穂35日前・10葉期)の生育診断と穂肥施用

穂肥は、**出穂30日前に窒素成分で1.5kg/10a** 行うことが基本です。

葉色が濃い圃場は、**中干しを十分に行った後**、上図・下表を参考に慎重に穂肥対応を行いましょう。

表 7月10日の茎数・葉色と穂肥対応

茎数・葉色 (SPAD)	穂肥時期	穂肥窒素成分量
①茎数 600 本/m ² 以下で、葉色 39 以下	出穂 30 日前	1.5kg/10a
②茎数 600～650 本/m ² 、または、葉色 39～41	出穂 30 日前	1.0kg 以下/10a
③茎数 650 本/m ² 以上、または、葉色 41 以上	穂肥を行わない ※注1)	

注1) ③の場合、出穂25日前まで待ち、確実に適正葉色まで低下した場合は、窒素成分 1.0kg/10a を上限に施用する。

注2) つや姫は、出穂前25日以降は穂肥を行わない。

(参考：1株当たりの茎数の目安) 70株植え：600本/m²⇒28本/株、650本/m²⇒31本/株)

●中干し後～穂ばらみ期の水管理

中干し後は、走り水で足跡に水がたまる程度にした後、徐々に**間断かん水**(2日湛水、2～3日落水)にします。

●カメムシ対策は万全に！

斑点米カメムシ類の発生量は「やや多い」と予想されています(7月4日病害虫防除所)。

発生密度を減らすため、草刈りを行い、被害の軽減を図りましょう。



熱中症対策を忘れずに！

日々の体調管理に注意！

こまめに水分補給・休憩を！